

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を重要事項やユニット便り、広報誌に記載したり、また玄関の見やすい位置に掲示している。	○	地域密着型サービスとして、職員や地域住民の意識づけが叶うような理念項目を現在検討している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には、参加者全員で理念を唱和している。また、会議や機会があるたびにケアが理念に叶ったものになっているか、具体的に話している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行のユニット便りや、季刊誌に理念を印字し配布することで家族や地域への啓発を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日町内を散歩しながら挨拶をかわしたり、野菜や花をいただくなど友好的な関わりが得られている。また畑の整備や収穫などを共に行うなど、日常生活上の交流頻度が高い。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の散歩を日課とし、また地域行事や祭礼への参加も定着しており、活発な交流が実践できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>管理者や職員は、地域高齢者にむけ認知症予防の講演や行事にも積極的に参加している。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>評価の前後には必ず、会議を開催し自己評価の記入や結果の公表、改善にむけた具体案などを話し合っている。また自己評価表を自由に閲覧できるようにファイルし、各ユニット入り口に設置している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>会議では、活動状況報告にとどまらず、苦情や事故内容などを公開し、(個人名は保護)対応や意見を話し合っている。また、運営推進会議の内容を、職員に直接通達したり、議事録を閲覧し周知をはかっている。</p>		
9	<p>○市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営推進会議の案内や更新申請時には、必ず直接出向き、情報交換の場としている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>ホーム内で研修を実施したり、資料を配布し職員の知識習得に役立てている。制度利用者も複数入居している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>外部研修やホーム内研修への参加を促したり、また職員の休憩室に拘束項目を掲示するなど虐待や拘束に対する意識啓発をはかっている。事例はないが、同意書や経過書の整備もできている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除に際しては、重要事項説明書や解約届に沿って、家族や本人に十分説明し、理解が得られるよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を傾聴する姿勢はあるが、書類提出あまりがなされていない。入居者の暴言などは、事故報告として提出され、表出しにくい被害者心理の確認がなされていない傾向にある。	○  暴言や侵害を受けた入居者の表情や発言に、苦情内容があった場合などは、事故報告書とは別に受付票に記入していくことで内容が整理できたり対応、経過に客観的な視点をもつことができる。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ユニット便りを毎月発行し、個別の健康情報を担当者が手書きで記入している。また、日頃の様子や職員の異動・入退職なども、随時紹介するように心がけている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人同様に家族からも、苦情や要望聞き取り書を使用し対応している。また苦情がホーム内で滞らないよう運営者や運営推進会議などにも内容を公表している。(個人名には配慮) 第三者委員を設置し、家族への周知を文書にて行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は各ユニット会議や、勉強会には積極的に参加し、現状把握や職員の意見や提案を聴く機会としている。また週に複数回、ユニットで昼食を共に摂り職員・利用者との交流に努めている。月に1度開催される法人幹部会議などを活用し他部署からの意見収集にも心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や家族交流会などの行事や、受診など状況に応じて職員の勤務形態を調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職時に備え日頃から2ユニット間の交流を活発に行い、馴染みの関係をホーム全体で築けるよう努力している。また運営者は、退職した職員がいつでも訪ねて来られるような声かけをしている。</p>	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員から、新年度には研修希望を募り本人に叶うような研修への参加を促すとともに、職員の習熟度に応じた内外研修を定例化している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>周辺地区のホーム7ヶ所でネットワーク会議を定期開催し、情報交換や勉強会を行っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は週に複数回、ユニットで食事を共にし現状把握や職員との交流に努めている。また職員は順次運営者と食事をする機会があり、率直な意見や提案ができる席としている。休憩時には宿直室を開放したり、慰安旅行も職員のプランを最優先としている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課を3段階に分け実績と評価ができるだけ整合性の高いものになるよう工夫したり、施設内保育所を開設し、仕事と家庭の両立に配慮した取組を実践している。また新聞やTVなどから有効な情報が、随時閲覧できるよう資料提供を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接には、管理者とともに入居予定のフロアリーダーが同行し、必ず本人に紹介している。また入居に際しての不安や疑問などに対し見学を促したり、傾聴に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	待機者を対象に定期的な連絡をし、本人の様子はもちろん、家族の状況や思いを聴き取るようにしている。不安や心配がある場合、また親戚がそうであった場合には、見学に来ていただくよう案内している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、希望や必要とされる支援が提供できるよう、フォーマル、インフォーマルなサービスの情報提供を行ったり、関係者との連携を活用し対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や交流機会がもてるよう支援しているが、十分な準備段階が無いまま入居に至るケースが過去何例かあった。	○ 開設まる三年経過したこともあり、共用型デイサービスの実施を計画している。サービス提供が叶えば、待機者や入居直前者のダメージを最小限に押さえられるような期間が確保できる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や家族の話から、得意なことを主体性をもって行えるよう支援している。料理やアイロン、畑作業など職員が学ぶ姿勢をもって接している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	電話やFAX, メールなどで頻繁に情報を伝えている。面会時には、親子で自慢の手料理をふるまっ下さったり、職員も交えアルバムをめくりながら、会話を楽しむこともある。		
29 ○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	ユニット便りに添付して本人が家族に宛てた直筆の手紙や絵を郵送したり、遠方在住の子どもや孫、ひ孫とも疎遠にならないよう写真を添付したメールのやり取りを実施している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに通う近隣の方と相互に訪ね合ったり、買い物帰りに自宅付近へ迂回するなど本人にとっての“地域”を意識した支援を行っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベル差があり、トラブルが予測される場合や暴言の的になりそうな状況時には、適切な介入をしたり仲介役として見守るよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の特養や病院へ面会に出かけたり、暑中見舞や年賀状などを通じて、コンタクトを絶やさないよう努めている。（退去事例は1例のみ）		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニットを1単位とせず、お茶やおやつなど日常の些細なことにも、可能な限り、希望を伺うようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りシートにおける情報や面会家族から得られた話、また本人との会話を記録（C-1-2シート）記入している。その情報を共有しながら本人の把握に努力している。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察や記録をもとに、変化時の対応を申し送ったり、ケース会議で現状課題や支援策を検討している。日内・週内変動が激しい入居者や不穏症状の出現頻度の高い方は特に緻密な記録ノートを使用している。	
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プランには本人の強みや意向を必ず取り入れるようにしている。またモニタリングで課題を再検討している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しを一覧表に作成し時期の把握に努めている。見直し以前の急激な状況変化には、プラン変更がやや遅れがちな実情もあるが、まずケース会議を開催し、即したケアを統一するようにしている。	○ ケース会議で検討されたケア項目については即座にプランとして立案し同意を得る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録、チェック表などを活用し、情報を共有している。また担当者はケース会議に向けて書式を工夫し、更に細かい情報収集を事前に行えるよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養やなじみのデイサービス利用者との交流が叶うよう支援している。またホームヘルパーの調理研修にキッチンを提供したり、地域住民との交流などにもホームを開放している。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市の警察、消防署には定期的に挨拶に出向き協力を依頼している。また、民生委員の見学要請や学生の実習も受け入れている。		
41 ○他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望や必要に応じて福祉用具の購入や介護用品などのサービス事業所の訪問を依頼したり、医療保険でリハビリに定期通院している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の案内時や開催後など、地域包括支援センターからの様々な助言や提案をもとに、協働できる体制を整えている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後に備えて全員で方針を検討する必要がある。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	医療連携加算の算定要件と、職員や家族負担は大きく影響すると思われる。終末期対応について今後、重度化しても安心して過ごしていただけるよう慎重に検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	併設の特養への転居事例が1例のみではあるが、心身状況や介護内容などの詳細情報を、文書と口頭にて提供している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入浴や排泄には個別マニュアルを作成し、プライバシーへの配慮も記載し対応している。また、ケース記録表紙の個人名はイニシャルとしている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	自己決定を尊重し、選択肢のある問いかけに配慮している。理解が得られにくい入居者や記憶障害の顕著な方にはメモや手帳を活用している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	掃除や洗濯、また買い物の同行など同意や希望を都度伺いつつ、ペースや能力に応じた声かけを行っている。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	地域にある理美容室を利用したり、習慣を把握した上で、化粧を促している。外出や行事には、洋服を共に選択するなど楽しく取り組んでいる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓拭きや、配膳・下膳はもちろん、盛り付けや味見などそれぞれの能力に応じた役割が定着している。献立も毎日書いていただき掲示している。	
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日々の買い物や個人外出などを通して、個人の嗜好品を購入したり、お茶やおやつ時には出来るだけ希望を伺う機会としている。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表や個別マニュアルを活用し個々人の把握に努め、習慣を活かした支援をしている。また、誘導時にはプライバシーに配慮した声かけを行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別の入浴マニュアルを作成し、希望や能力に合わせた支援を実施している。夕食後の入浴者も多い。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩を励行し活動量の維持に努めている。また状況や体調に合わせて、就寝前の飲み物や空調を調節している。	
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ダイバージョナルセラピーの実践に取り組み個別ケアを充実させている。実施内容を記録し年間評価も合わせ家族に説明している。	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の支払い・管理能力に合わせ保管方法や買い物支援など多様に対応している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ダイバーショナルセラピーの計画は、個人または、グループでの希望に沿ったものになっている。買い物や外食、理美容や作業などアクティビティの幅を広げることを意識している。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行や夜桜、モーニングなど日中時間外の出出にも取り組んでいる。		今年度は家族と共に日帰りバスツアーを計画している。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は居室に電話を持ち込み連絡を取り合っている。また、FAXやメールを活用し直筆文を送信できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、気軽に声をかけ、遠慮なくお茶を飲んでいただいたり、居室以外にも会話が弾むような場所づくりを設定するようにしている。また食事や宿泊体制も整えている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止項目を職員ロッカー入り口に掲示したり、外部研修や内部研修を通して理解や知識の習得機会としている。事例はないが、同意書や対応経過書も整備している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室や玄関の施錠はしておらず、入居者は庭に自由に入出りできるが、周囲には民家も少なく、立地上周囲に急な坂道や、溝も多いことから門扉はやむを得ず施錠している。入居者の急な散歩や外出の要求には、都度対応している。</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>心身の状態や行動の変化を日々把握し、申し送りを徹底している。夜間は、入居者の状況が見やすい場所で記録や作業を行うようにしている。</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>危険な薬品や洗剤等には、保管上配慮しているが、調理器具や食品については、一般的な保管であり現在、支障や問題はない。今後状況の変化に合わせ対応していく。</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故報告だけでなく必ず検討会議を開催している。また、様々な事故別の緊急・救急マニュアルを作成し、チャート図として掲示している。特に火災や行方不明については、シミュレーションを昼・夜と発生時間帯別に実施している。</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>定期的に救急蘇生法やAEDの講習を受講するようになっている。また勉強会やユニット間で相互実習を行っている。</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防・避難訓練は併設施設と合同で年に2回、ホーム独自で2回実施しているが、地震や水害などの自然災害を想定し、地域と連携した対策について話し合うまでには至っていない。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを作成したり、時期に即した参考資料を回覧することで、予防や早期対応に備えている。入居者、職員ともにインフルエンザのワクチン接種は実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は買った日付や使用する日付を必ず記入している。調理器具等の衛生管理は、手順書を作成し、沿った方針で衛生管理を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や庭には花壇や畑をつくり、近隣の風景と違和感のないように配慮している。また職員は近所を散策したり農作業をしている地域住民に、気軽に挨拶や声かけをするよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を認識できるような草花を生けたり、置物や飾りに工夫をこらしている。又食事の状況や日々の希望に応じて、テレビの音量も調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーを設けたり、テラスにベンチを置いたり、中庭などセミパブリックスペースを確保している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周や空間の活用</p> <p>建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

6人という少人数を、家族の単位として捉え生活している。当ホームが積極的に取り組んでいるダイバーショナルセラピーにおいても、ユニット人数は密接に関係している。車1台で行動できることから、早朝の喫茶モーニングや夜間外食、皆で銭湯など9名のユニットでは叶えがたい取り組みを実施している。